

第6回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

- 1 日 時 令和8年7月29日（水） 午後2時から午後4時30分まで
- 2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）
- 3 出席者 （1） 委員 16名中13名出席（欠席3名）
（2） 県 教育改革統括監、教育創生課長 ほか
- 4 議 題 （1） 高等学校教育改革実行計画の策定について
（2） 専門高校の在り方について
（3） 15年後の学校規模・配置について

5 意見交換における主な発言概要

（1） 高等学校教育改革実行計画の策定について

- 計画策定にあたっては、学校現場や地域、大学、産業界を巻き込み、2040年の社会構造の変化を見据えた本質的な課題意識を共有し、本県の未来に向けた気運を醸成することが重要である。
- 小中学生や保護者が持つ進路選択の意識と、2040年の社会構造の変化との間にはギャップが存在するため、どのような人材が必要とされるのかという具体的な社会像を提示し、県民の意識変革に向けた丁寧な説明を重ねていく必要がある。

（2） 専門高校の在り方について

- 小中学校段階から専門高校の特性を生かした体験学習や、実社会と結びついたキャリア教育を推進するとともに、生徒の「好き」や「得意」を評価する入試改革を進め、中学生が主体的に進路を選択できるよう取り組むことが重要である。
- 生徒数減少と施設の老朽化が進む中、教員や設備等のリソース集中による持続可能な体制の構築とともに、国の交付金や事業債等を積極的に活用し、夢のある再編整備を進める必要がある。
- 専門高校からの進路の選択肢を広げるため、県内大学との本格的な協議を行い、受け入れ枠を拡大するとともに、不足しがちな理数科目等を補強・補完する連携体制を地域全体で構築すべきである。
- 専門教育における「生産・ものづくり・販売実習」などの取組は、「産業・経営」の実践的な学びの場である。こうした実践を通して「稼ぐ力」を養うとともに、得た収益を設備の充実や生徒の進学・資格取得資金に還元する仕組みを構築し、専門高校の「将来稼げる魅力」を発信していく必要がある。
- 専門高校の志願者を増やすためには、他県事例を参考にしたポータルサイト等の整備を通じて、進学実績など従来の評価軸にとらわれない各校独自の学びの魅力を、小中学生や保護者へ分かりやすく提示する環境を整えることが重要である。

（3） 15年後の学校規模・配置について

- これまでの議論を踏まえると、将来の学校規模の予測から再編検討が必要な高校・地域については、具体的に検討を開始する時期を迎えており、将来の学校数などの方向性を示した上で、再編計画の策定に向けて具体案を検討する機会を設ける必要がある。
- 委員間で共通認識が図られていた一定の学級数による再編基準の設定だけではなく、2040年に向けた魅力的な教育環境づくりという視点で戦略的な再編を推進できるよう、柔軟に検討すべきである。
- 「魅力化推進校（仮称）」の再編検討基準については、少子化で生徒数が減少する中、地元地域からの進学割合など、地域から必要とされているのかを捉える視点も含めた設定も考えられる。
- 2040年の社会構造の変化を見据え、中学生や保護者の意識を変えることが重要である。そのためには、徳島市内普通科の特色化や教育内容の充実を踏まえた高校再編の検討を、県東部においても県西部・南部と並行して進める必要がある。